

最近の国内誌にみられた鶏病に関する文献

誌名	鶏病研究会報
ISSN	0285709X
著者名	
発行元	
巻/号	3巻2号
掲載ページ	p. 44-46
発行年月	1967年11月

農林水産省 農林水産技術会議事務局筑波産学連携支援センター
Tsukuba Business-Academia Cooperation Support Center, Agriculture, Forestry and Fisheries Research Council
Secretariat



(1) 組成 1,000ml当り

YCC寒天

酵母エキス	5g
ペプトンM	20g
燐酸一水素カリウム	2g
無水亜硫酸ナトリウム	0.2g
ブドウ糖	5g
チオ硫酸ナトリウム	1.2g
寒天	15g

YCCブイヨン

酵母エキス	5g
ペプトンM	15g
燐酸一水素カリウム	2g
無水亜硫酸ナトリウム	0.2g
ブドウ糖	4.5g
チオ硫酸ナトリウム	1.1g

いずれもPH7.4とし、121°で15分間滅菌する。

(2) 培養方法

YCCブイヨン19mlに検査品1ml(おおむ

ね30羽分)を注加し、37°で24時間培養する。このものの2白金耳をYCC寒天の平板に塗布し、37°で24時間培養する。

疑わしい集落を認めた場合は、ひな白痢家兔免疫血清によって同定する。

5 マイコプラズマ・ガリセプチカム用培地 P P L O増菌培地を用いる。

組成 1,000ml当り

牛心臓浸出液	100ml
ペプトン	10g
塩化ナトリウム	5g
ブドウ糖	1g
酢酸タリウム	0.25g

PH7.8±0.1

上記に対し馬血清20%、1%フェノールレッド液1.8mlおよびペニシリン1000u/mlを加える。

また、固型培地には上記成分中のフェノールレッド液を除き、粉末寒天(Bactoagar - Difco)を15g加える。

4. 最近の国内誌にみられた鶏病に関する文献

調査誌目録

1. 日本獣医学雑誌
2. 日本獣医師会雑誌
3. 日本細菌学雑誌
4. ウイルス
5. 畜産の研究
6. 鶏の研究
7. 鶏友
8. 養鶏の友
9. 養鶏界
10. 養鶏世界
11. 農林省家畜衛生試験場研究報告

ウイルス関係

- 201 本誌編集部
(特集)ニューカッスル病の明暗
養鶏の友 4. 22~31 '67
- 202 熊坂利明
ニューカッスル病に対する提言
鶏の研究 4. 144~146 '67
- 203 野村吉利

(鶏病研究)ウイルス性鶏伝染病とくにニューカッスル病に対する消毒剤の効果と使用方法
鶏の研究 4. 171~173 '67

- 204 本誌記者
(ルポ)ニューカッスル病を甘くみた養鶏家、二千羽も二日で零羽に
養鶏世界 5. 40~51 '67

- 205 編集部
(特集)防遏せよ恐るべき伝染病
鶏友 5. 23~41 '67
- 今井正夫 最近の鶏病の発生状況と防疫対策
百瀬 寛 不活化ワクチンと生ワクチン使用許可要望の問題点
所 秀雄 ニューカッスル病緊急対策を訴える
編集部 生ワク使用を激しく迫る、生ワク使用方法を解説、生ワク使用は慎重に

- 206 松原好夫 斎藤富士雄外
(座談会)ニューカッスル病と戦った12人の体

- 験 鶏の研究 5. 116~121 '67
 207 編集部
 農林省生ワク野外試験の実施方針
 " 5. 86~89 '67
 始まった生ワク民間の野外実験
 " 5. 45 '67
 208 駒井 享
 (鶏病提言)生ワクのみでは片づかぬニューカ
 ッスル病 " 5. 151 '67
 209 吉田三郎
 ニューカッスル病雑感
 " 5. 110~111 '67
 210 川島秀雄
 (鶏病講座)ニューカッスル病生ワクチン
 " 5. 176~178 '67
 211 吉村昌吾
 伝染性喉頭気管炎 鶏友 5. 110~112 '67
 212 小川和夫
 ニューカッスル病予防液の正しい取扱い方と
 使い方 " 5. 7~8 '67
 213 高橋 正
 生ワクチン問題につき三たび訴える
 養鶏界 5. 45 '67
 214 後藤ふ卵場
 生ワク反対、私は断菌死毒ワクチンを支持す
 る " 5. 54~60 '67
 215 西村 豊
 (文献抄訳)英国グラクソー研究所で開催され
 た家禽の呼吸器病に関する討論会
 ニューカッスル病 鶏の研究6. 167~169 '67
 伝染性喉頭気管炎 " 7. 172~173 '67
 216 川島秀雄
 (鶏病講座)鶏の白血病
 " 6. 176~178 '67
 217 鈴木英雄
 ニューカッスル襲撃に耐えた養鶏場
 鶏友 6. 110 '67
 218 牧田正義
 ニューカッスル病備えあれば憂えなし
 養鶏界 6. 61~63 '67
 219 本誌編集部
 (特別レポ)5人の科学者による白血病の洞察
 " 6. 246~250 '67
 220 神山栄三
 養鶏近代化に打撃、ニューカッスル病
 養鶏世界 6. 228~233 '67
 221 宮本猛, 山野輝夫
 (講演集録)ニューカッスル病の予防, 近代的
 鶏病予防の実際 " 6. 50~56 '67
 222 鈴木勝夫, 鈴木健三外
 (座談会)鶏の衛生と薬(1)
 畜産の研究 21—5 659~666 '67
 223 緒方宗雄, 岡崎和夫
 鶏のニューカッスル病とその対策(1) (2)
 " 21—5 735~741 '67
 " 21—6 877~883 '67
細菌関係
 224 佐藤静夫
 マイコプラズマによる関節膜炎
 鶏友 3. 110~114 '67
 225 田和 均
 CRDの診断, 予防, 治療
 " 3. 115~121 '67
 226 青木貞治
 最近プロイラーに多くみられる中雛のひな白
 痢 " 3. 160~165 '67
 227 青木貞治
 最近では「ひな白痢」の発生が増えている
 養鶏の友 4. 34~37 '67
 228 春野正孝
 CRDの予防, 衛生, 治療について
 養鶏世界 5. 338~341 '67
 229 堀内貞治, 川村斎, 関令二
 (鶏病図鑑)マイコプラズマによる関節膜炎
 養鶏の友 3. 18~19 '67
 230 佐々木栄英, 大須賀徹弥, 藤井毅
 スルファジメトキシンの鶏に及ぼす影響
 日獣会誌 20. 4. 157~160 '67
寄生虫関係
 231 伊藤礼二
 コクシジウムの鶏痘 鶏友 5. 85~89 '67
 232 沢田 勇
 鶏回虫に対するハイグロマイシンBとテレフ
 タール酸併用駆虫効果
 畜産の研究 21—5 715~716 '67
鶏病一般
 233 山本 健
 疾病の分類と心得

- 養鶏世界 3. 333~335 '67
- 234 伊藤博禪
育成率向上と防疫対策
" 4. 122~124 '67
- 235 上島次郎
消毒薬の有効な使い方
" 4. 198~204 '67
- 236 久保田 裕
ひなの育成と衛生管理
" 4. 254~257 '67
- 237 東川由起夫
鶏の病気とその治療
" 4. 258~262 '67
- 238 鹿兒島 丹
上気道の病気と治療
" 4. 333~335 '67
- 239 堀内貞治, 川村斎, 関令二
(鶏病図鑑)衛生害虫—ニワトリヌカカ
養鶏の友 4. 18~19 '67
- 240 金子史郎
(病性鑑定ノート)ガンボロ様疾病
" 3. 7~10 '67
鶏の飼料中毒 " 4. 7~10 '67
- 241 和田清治
ヒナの脚弱は Vit. E の添加補強で防げるか
" 3. 36~39 '67
- 242 飯盛新, 岡本富士雄
多数羽養鶏家に発生した神経症状を主徴とする鶏病の病性鑑定事例
鶏友 4. 110~113 '67
- 243 宮崎家畜保健衛生所
鶏脳軟化症の発生と予防治療実験
" 4. 112~117 '67
- 244 伊藤博禪
ケージ養鶏と防疫対策
養鶏世界 5. 90~95 '67
- 245 藤井仙三郎
鶏病予防の心得と処理
" 5. 190~197 '67
- 246 西塔伊佐夫
脚弱症について " 5. 198~201 '67
- 247 旭洋二郎
最近の鶏病事情と問題点
" 5. 202~204 '67
- 248 上島次郎
呼吸器病予防と鶏の体力増強
" 5. 218~225 '67
- 249 東西寺 健
成鶏が罹りやすい病気
" 5. 270~275 '67
- 250 伊藤誠喜外
ケージ養鶏の軟水様便の処理に関する野外試験
畜産の研究 21.5. 713~714 '67

＜鶏病研究会だより＞

前号にひきつづき、そのごの本会の活動状況等をお知らせします。

1. 第2回通常総会決定事項

昭和42年4月17日東京虎の門共済会館で開催された第2回通常総会の概要について、提出議案の決定事項を紹介します。

第1号議案：昭和41年度事業報告

高村理事(庶務担当)から経過報告のあと承認。

第2号議案：昭和41年度収支決算

収支決算につき、松下理事(会計担当)から説明のあと、添川監事から会計監査報告があつて異議なく承認。

第3号議案：鶏病研究会会則の一部改正

(1) 本会の事業活動等運営上の問題から、従来の入会金および会費を各500円(従来各300円)に改正するための会則第11条の改正案、および

(2) 本会役員任期が会則第14条、17条の2の規定により年度中(9月21日)に満了になることならびに一部改選の必要も生じたことから、本総会において会員の互選により改選しようとするため、会則の附則の改正案を提出し、高村理事から主旨説明があり、2, 3の討議ののち、承認(改正された会則全文は本号末尾に掲載)。